

大慈寺(糠塚)調査報告書－4

経蔵



経蔵

調査員 月舘 敏栄

調査期間 平成29年9月4日～11月6日

大慈寺(糠塚)経蔵 調査結果の概要	
1. 文化財の種類	県重宝(建造物)
2. 名称及び員数	大慈寺(糠塚) 経蔵 一棟
3. 所有者	宗教法人 大慈寺 住職 吉田 隆法
4. 所在地	八戸市長者一丁目6-59
5. 建築年代等	安政五年(1858)(棟札有) 大棟梁:青木源之助棟重
6. 規模及び構法	<p>(1) 建築形式 裳腰付木造平屋建</p> <p>(2) 屋根形式 鉄板葺方形屋根(当初は、柿葺屋根)</p> <p>(3) 構造形式 木造軸組在来構法 和小屋組</p> <p>(4) 面積 延床面積 91.2 m²</p> <p>(5) 規模 桁行 9.550 m 梁行 9.550 m 裳腰高 約5.8 m 棟高 約9.2 m</p> <p>(6) 意匠 経蔵は、内部の大型転輪蔵を覆う架構による鞘堂で、裳腰付棧瓦葺方形屋根の経蔵正面中央に棧唐戸を吊り、両脇に花頭窓を設えた意匠である。</p>
7. 沿革	<p>経蔵の棟札に経蔵建立の発起から竣工までが記述されている。</p> <p>嘉永四年(1851) 経蔵建立発起</p> <p>安政二年(1855) 月3回の托鉢</p> <p>安政三年(1856) 上京(京都)し、大蔵経と転輪蔵購入</p> <p>安政四年(1857) 建築開始</p> <p>安政五年(1858) 経蔵竣工</p>
8. 建築的特色	<p>(1) 形式 裳腰付方形屋根5間四方の経蔵である。内部は天井までの大型輪蔵を囲う4本の円柱に囲われている。</p> <p>(2) 構法 転輪蔵の四方に裳腰までの通し円柱を建てた身舎から側柱に虹梁を掛けた和様の架構で和様ある。</p> <p>(3) 意匠 正面の6枚の吊り棧唐戸、両脇の花頭窓の設え、裳腰の和様の出三斗や臺股などが特長である。</p>
9. 保存状況	柿葺又は桍葺から棧瓦葺に替えたためと推定される小屋組への荷重負担増によると推定される裳腰及び方形屋根からの雨漏りが転輪蔵に伝わっているが、外観及び保存状態は良好である。
10. 類似文化財	裳腰付方形屋根の5間四方の八角形の大型転輪蔵を持つ経蔵は、妙心寺経蔵(重文)など極めて希である。特に東北地方では少なく、中尊寺経蔵(重文)が知られるが、県重宝指定経蔵はない。
11. 指定理由	安政五年(1858)建立の棟札が残る大型経蔵は東北地方でも中尊寺経蔵(重文)など極めて少ない建造物で、県重宝に相応しい貴重な建造物である。

大慈寺(糠塚)経蔵 調査報告

1. 文化財の種類 県重宝 (建造物)
2. 名称及び員数 大慈寺(糠塚) 経蔵 一棟
3. 所有者 宗教法人 大慈寺 住職 吉田 隆法
4. 所在地 八戸市長者一丁目6-59
5. 建築年代等 安政五年(1858) (棟札有) 大棟梁: 青木源之助棟重

6. 規模及び構法

- (1) 建築形式 裳腰付木造平屋建
- (2) 屋根形式 棧瓦葺方形屋根 (当初は、柿葺屋根)
- (3) 構造形式 木造軸組在来構法 和小屋組
- (4) 面積 延床面積 91.2㎡ (25坪) *但し、1間=6尺3寸=1910mm
- (5) 規模 桁行 9.550m (5間) *但し、1間=6尺3寸=1910mm
梁行 9.550m (5間) *但し、1間=6尺3寸=1910mm
裳腰高 約5.8m (3間) *但し、1間=6尺3寸=1910mm
棟高 約9.2m (4間8尺) *但し、1間=6尺3寸=1910mm
- (6) 意匠 経蔵は、内部の大型転輪蔵を覆う和様の架構による鞘堂で、裳腰付方形屋根の経蔵正面中央に棧唐戸を吊り、両脇に花頭窓を設えた意匠である。経蔵内部は、和様の組物と虹梁による簡素な架構である。

7. 沿革

安政五年(1858)に竣工した経蔵の棟札に、経蔵建立の発起から竣工までの経過が記述されている。

- 嘉永四年(1851) 経蔵建立発起
- 安政二年(1855) 月3回の托鉢
- 安政三年(1856) 上京(京都)し、大蔵経と転輪蔵購入
- 安政四年(1857) 建築開始
- 安政五年(1858) 経蔵竣工

経蔵建立の発起後、5年間月3回の托鉢で資金を集めて、建立の一年前に京都に赴き、大蔵経及び転輪蔵一字を求めたことが記されている。

度重なる地震でも大きな被害がなかったが、桎葺から棧瓦葺に替えたために屋根から雨漏りが生じている。



写真-1 経蔵の棟札

8. 建築的特色

(1) 形式 経蔵は、仏教の一切経などの經典や仏教に関する書物を収蔵する建造物で、経堂や経庫と呼ばれることもある七堂伽藍の一つにも数えられることもある。

大慈寺(糠塚)の経蔵は、八戸南部家二代藩主直政から拝受した二百冊余りの一切経などの經典や仏典を保管する回転式の収蔵庫である転輪蔵の鞘堂として建てられた。

経蔵の規模は、直径約2間(約3.6m)、高さ2間半(約4.5m)の大型の転輪蔵を覆う裳腰付方形屋根付きの5間(約9.55m)四方と記された大型経蔵である。

凝灰岩切石による基壇の上建てられた経蔵の正面は、6枚の吊り棧唐戸、両脇に花頭窓、南北両側面中央に2枚の棧唐戸、横嵌板壁を挟んだ両端に花頭窓を設けている。転輪蔵奥の壁龕に仏像を祀っている。直径約2間(約3.6m余り)、高さ2間半(約4.5m余り)の大型転輪蔵周囲に裳腰まで4本の円柱の通し柱を建てて、大経蔵を収めた転輪蔵を護っている。



写真-2 八角形の大型転輪蔵



写真-3 転輪蔵下部は繰形付軸組を支持

(2) 構法 転輪蔵を囲む四方に立つ4本の円柱が裳腰上の方形屋根を支え、4本の円柱を虹梁で繋ぎ、身舎の円柱から裳腰下の庇に繫梁を掛けて耐震性を高めている。裳腰下の四周の横嵌板壁は、地覆・腰貫・飛貫・木鼻付頭貫で固められている。

正方形の平面と身舎及び庇に対象に加工された柱と梁は、八角形の大型転輪蔵を護るための特別な構法と推定される。また、凝灰岩切石の基壇の上に礎石を敷き、内部の礎石上の木製礎盤を置き、その上に円柱を建てる構法は山門と同じである。



写真-4 転輪蔵を護る四周の円柱と架構

写真-5 円柱を繋ぐ虹梁と側柱との繫梁

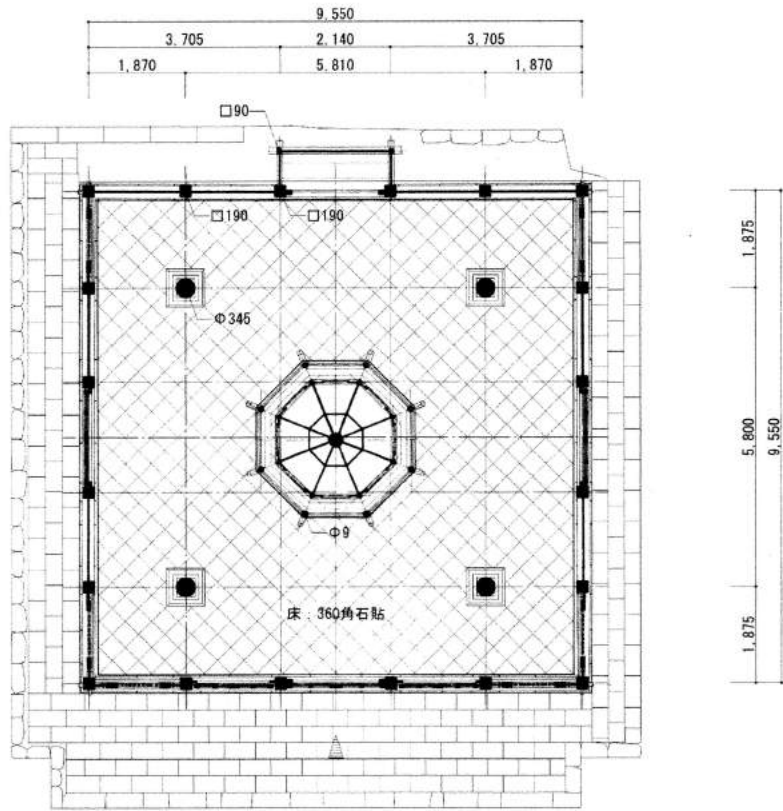
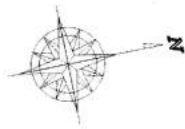


図-1 凝灰岩切石の基壇上に建てられた経蔵平面

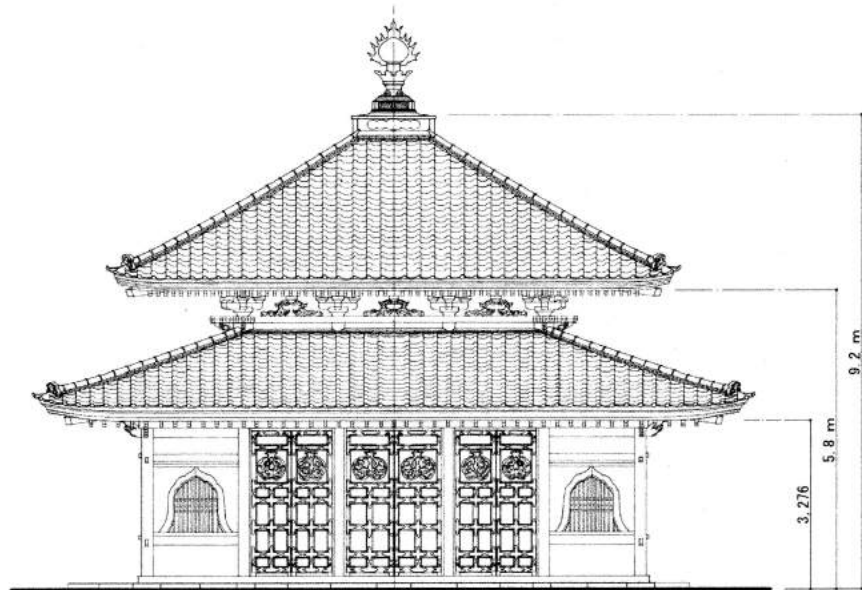


図-2 裳腰付棧瓦葺方形屋根の経蔵立面

(3) 意匠

大蔵経を収めた直径約2間(約3.6m余り)、高さ2間半(約4.5m余り)の大型転輪蔵を覆う鞘堂として経蔵は建られているため、屋内は架構中心の建物である。

経蔵外観の意匠の特長は、裳腰付棧瓦葺方形屋根であるが、当初は柿葺又は桎葺であった。方形屋根は二軒の垂木と和様の出三斗と軒支輪を受ける臺股で支えられている。裳腰軒は疎垂木で、方形屋根の軒回りは木鼻付出三斗組で飾られている。

経蔵正面は、中央の6枚の棧唐戸と両脇の花頭窓で設え、両側面も同様に中央に2枚の棧唐戸と両端に花頭窓、背面は幅1間奥行半間の壁龕を横嵌板の意匠である。

経蔵内部も柱頭に木鼻付出三斗を組み、壁龕には海老虹梁を掛けるなど架構意匠にも配慮されている。



写真-6 経蔵正面の6枚の棧唐戸と花頭窓



写真-7 経蔵側面の棧唐戸と花頭窓



写真-8 経蔵背面に壁龕に横羽目の板壁



写真-9 二軒を支える和様の出三斗と臺股

大蔵経を収めた直径約2間(約3.6m余り)高さ約2間半(約4.5m余り)の大型八角形転輪蔵は、側柱上部に禅宗様の出三斗と中備に平三斗の設えている。側柱を受ける繰形を嵌めた転輪蔵の八角形軸木は、反花蓮弁型八角形の凝灰岩切石の上に建てられている。

裳腰までの通し円柱を繋ぐ彫刻付虹梁は、和様の繰形腕木で受け、裳腰円柱から側柱に海老虹梁で繋いでいるが、簡素な造りである。



写真-10 転輪蔵の軒組は禅宗様



写真-11 海老虹梁を受ける出三斗の来迎柱

9. 保存状態

経蔵建立から160年余りすぎたが、裳腰及び方形屋根を柿葺から棧瓦に葺き替えただけでほぼ当初の姿を継承し、建材にも目立つ腐朽などは見られない。しかし、軽い柿葺から重い棧瓦に葺き替えただけのために小屋組に撓みが生じ、転輪蔵に雨漏りの濡れが生じている。まだ、雨漏りによる具体的被害は見られないが、屋根葺材及び小屋組の検証が必要である。雨漏り等の解決すべき課題はあるが、経蔵の保存状態は良好である。



写真-12 転輪蔵に雨漏り



写真-13 桎葺を重い棧瓦葺きに替えたために屋根が波打っている

10. 類似文化財

青森県内に経蔵は殆どなく、東北地方では中尊寺経（国宝）を納めるために建立された中尊寺の流造・方形屋根の経蔵（国重文）があるが、大慈寺（糠塚）の経蔵は5間四方の裳腰付方形屋根と大型で瀟洒である。

大慈寺（糠塚）経蔵と同規模の裳腰付経蔵は、曹洞宗大本山總持寺（登録文化財、輪島市）祖院経蔵（石川県重宝）や妙心寺経蔵（重文、京都）がある。妙心寺の経蔵は外壁が漆喰壁で二枚の棧唐戸の違いはあるが、内部の八角形転輪蔵も含めてほぼ同じ規模である。

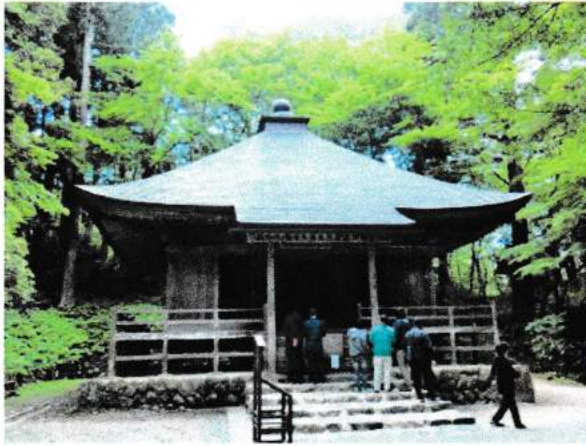


写真-14 中尊寺経蔵（重文）



写真-15 総持寺祖院経蔵
（石川県重宝）



写真-16 妙心寺経蔵（重文）



写真-17 大慈寺と同規模の転輪蔵
（出典：妙心寺 HP）

大蔵経と転輪蔵購入のために、十七世住持が安政三年(1856)に上京（京都）している。この際、妙心寺他の多くの経蔵も訪れたと推察され、裳腰付経蔵に繋がったと考えられる。

1.1. 県重宝としての評価

安政五年(1858)建立の棟札が残る経蔵は、経蔵建立の発起から竣工までの経過が明確で保存状態も良い貴重な建造物である。加えて、全国的にも貴重な5間四方の裳腰付方形屋根の経蔵は県重宝に相応しい建造物である。

1.2. 文献

- (1) 「青森県の近世社寺建築」 (I)、(II)
- (2) 文化財シリーズ「第28号 八戸の社寺建築 上」、「第29号 八戸の社寺建築 下」
- (3) 「曹洞宗 糠塚福聚山 福聚山大慈寺 写真と年表」
- (4) 「八戸糠塚 福聚山 大慈寺 寺誌」
- (5) 「青森県史 文化財編 建築」